

WESTERN HEMISPHERE

EASTERN HEMISPHERE



収蔵品展

貝標本でめぐる

世界の旅

あの国にはどんな貝がいるのだろう？

2024 2.20 Tue. ▶ 5.26 Sun.

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 令和5年度企画展

- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）*4月30日は臨時開館
- 観覧料 一般200円 大学生等100円 高校生以下無料
下関市と北九州市在住の65歳以上 100円
- 療育手帳、身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、戦傷病者手帳（項症）の交付を受けられた方と、その付添人（身体障がい者の場合は1級から4級、戦傷病者の場合は特別項症から第4項症）1名は無料
 - 20名様以上の団体の観覧料：一般160円 大学生等80円



土井ヶ浜遺跡

人類学ミュージアム
The Doigahama Site
Anthropological Museum

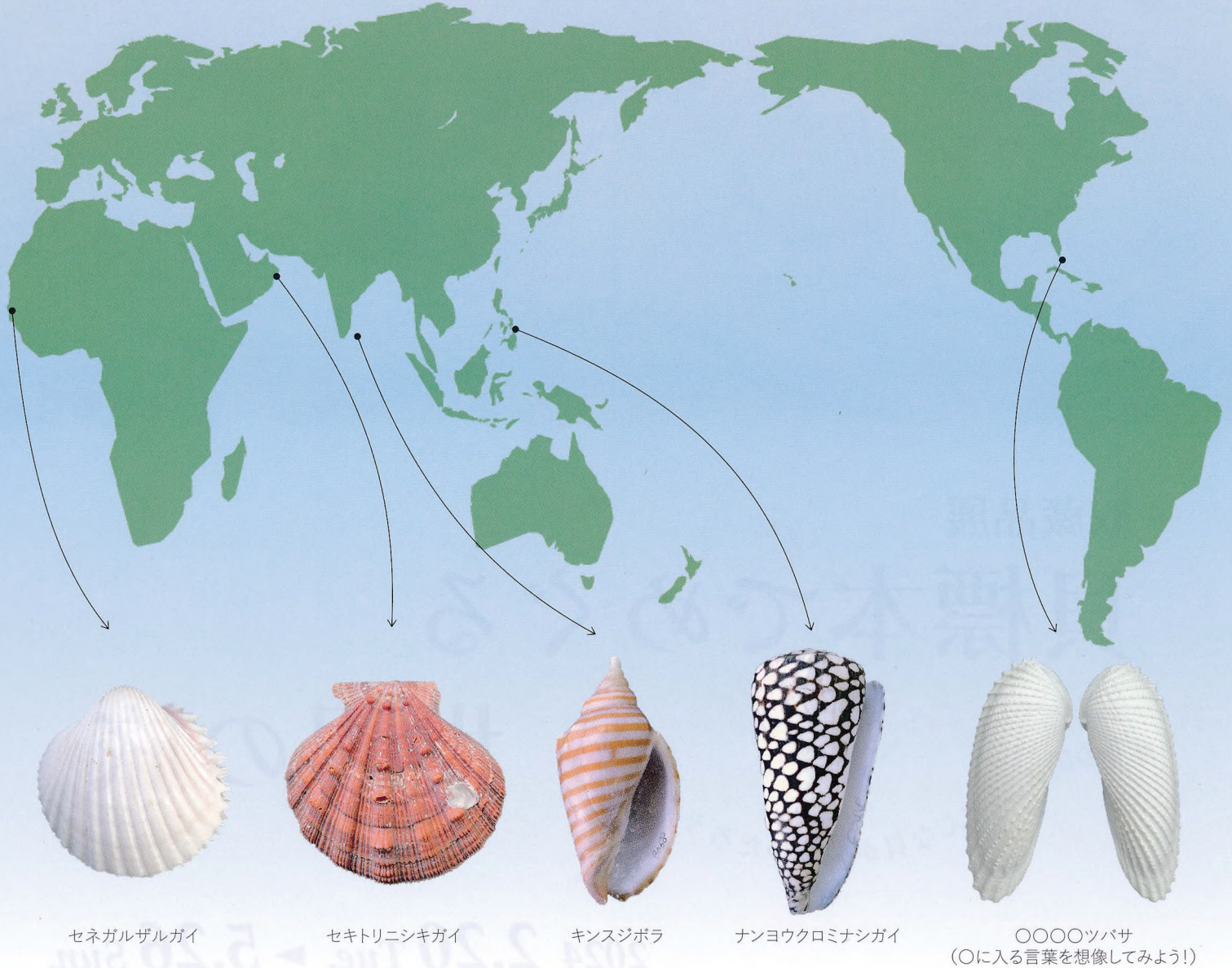


写真の貝の名前（左から）：オホソクタイトカケガイ、カムチャッカアワビ、イジンユメハマグリ、アダンソンオキナエビスガイ、トガリウノアシガイ、オウムガイ、エビスボラ

貝類が属する軟体動物のグループは、8万種以上いるといわれています。貝類は環境への適応力が高く、世界中の海・淡水・陸に棲息しています。

当館は、国内屈指の貝標本コレクターである河村良介氏(下関出身の実業家)が、半世紀にわたって収集されたコレクションの一部を収蔵しています。その中から、日本をのぞく様々な国や地域から収集された海の貝を展示します。

人類は、10万年以上前から貝を食べ、貝殻を様々な用途に利用してきました。ここ土井ヶ浜遺跡の弥生人たちが、貝殻製の多種多様なアクセサリーを使っていました。現在も、貝を食べる食文化や、貝殻を道具や装飾に使う文化が各地にあり、旅先で食材や工芸品として貝に出会うこともあります。そうした貝に関わる文化についても紹介します。貝標本でめぐる世界旅行をお楽しみください。



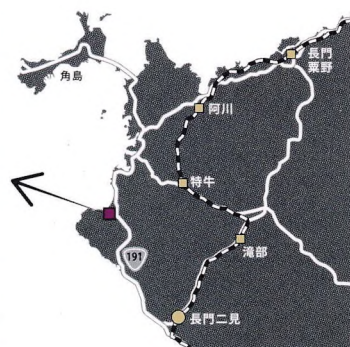
セネガルザルガイ

セキトリニシキガイ

キンスジボラ

ナンヨウクロミナシガイ

〇〇〇〇ツバサ
(〇に入る言葉を想像してみよう!)



アクセス

公共交通

ながとふたみ
JR長門二見駅よりブルーライン交通バス(肥中ひじゅうゆき)約15分、土井ヶ浜バス停下車、徒歩3分

自動車

中国自動車道下関ICより国道191号を長門方面へ約50分(無料駐車場あり)

連絡先

〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上891-8
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
Tel 083-788-1841 Fax 083-788-1843
<https://www.doigahama.jp/>

